

# うごき、 かわり、 つづくまち。

— 縁石を「活かして」 —



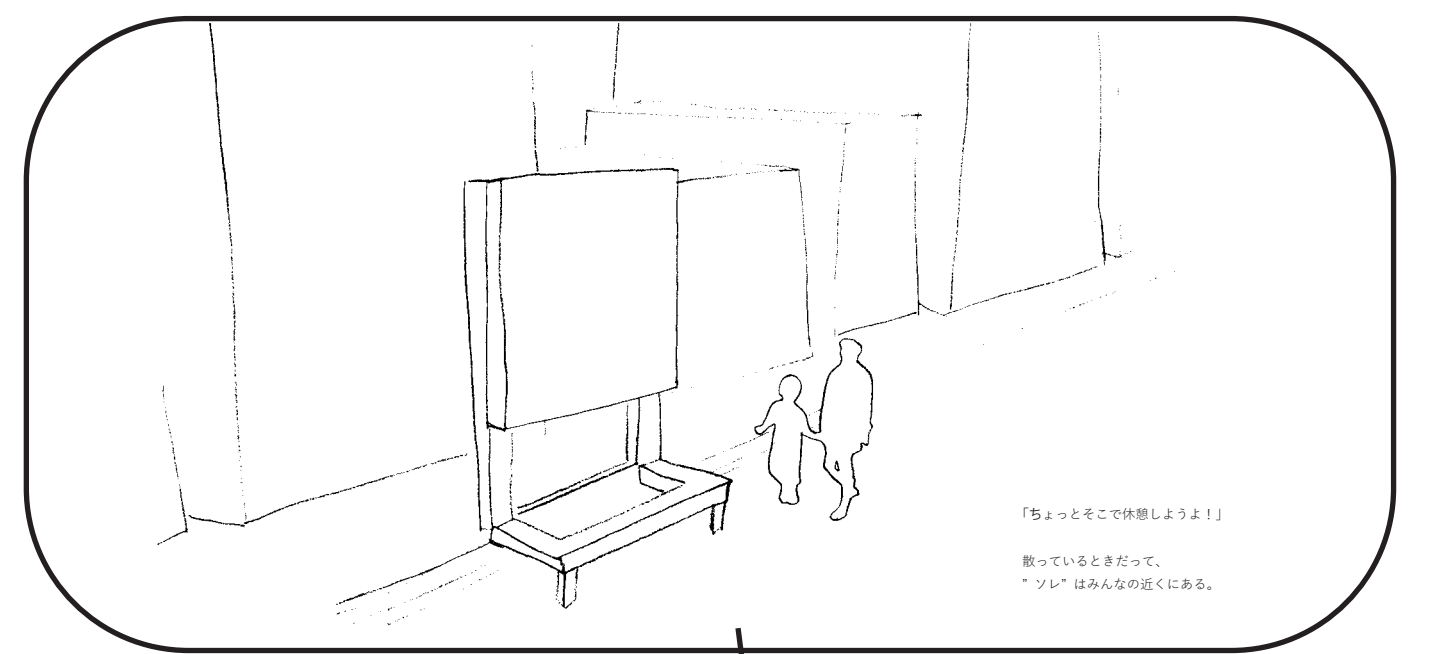
## ———これが新しい”うごく”まちのカタチ。

固定されたまちなんてもうやめて、ぐるぐるぐるぐる回るまち。  
きつとどこだって、主役になれる。

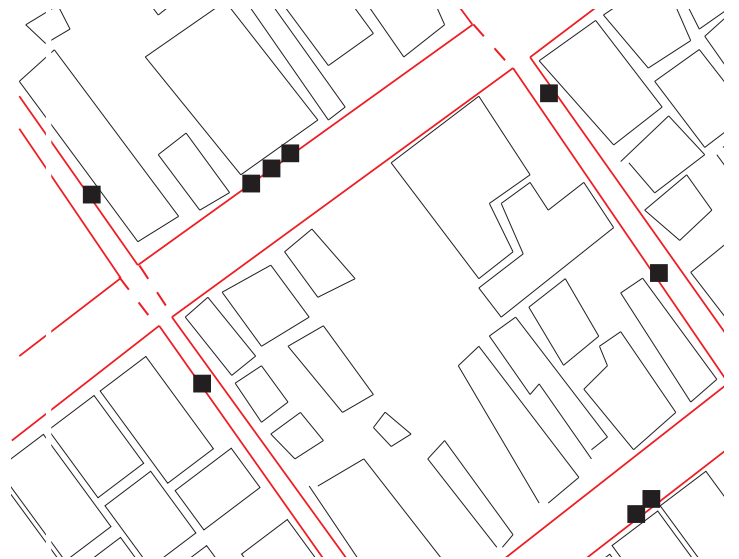
うごく”ソレ”は、マチを乗せてまちを行く。  
集えばマチが交差し、散ればまちの一部へと。  
形を変え、役割を変え、私たちと一緒に生活する。

縁石をまちのレールとして「活かす」。

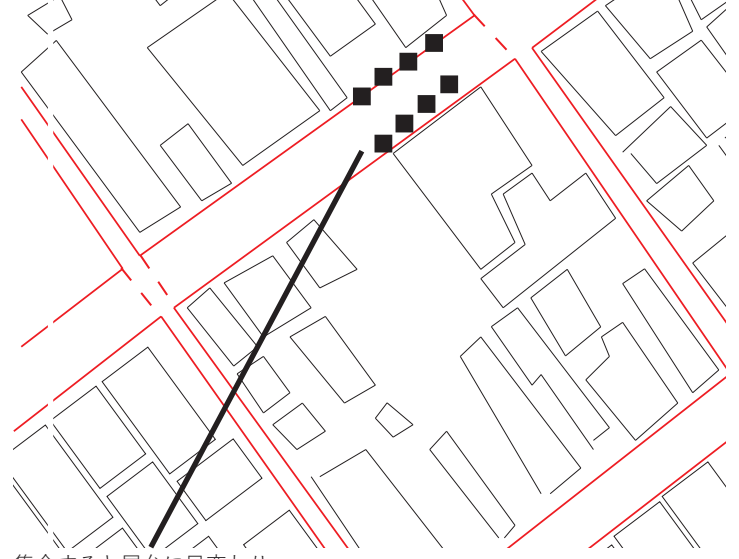
今まで車道と歩道を隔てる  
ただの境界線だった縁石をレールに変える。  
縁石はまちのインフラとなる。  
このインフラは、まちの人たちが自由に  
使うことができる。



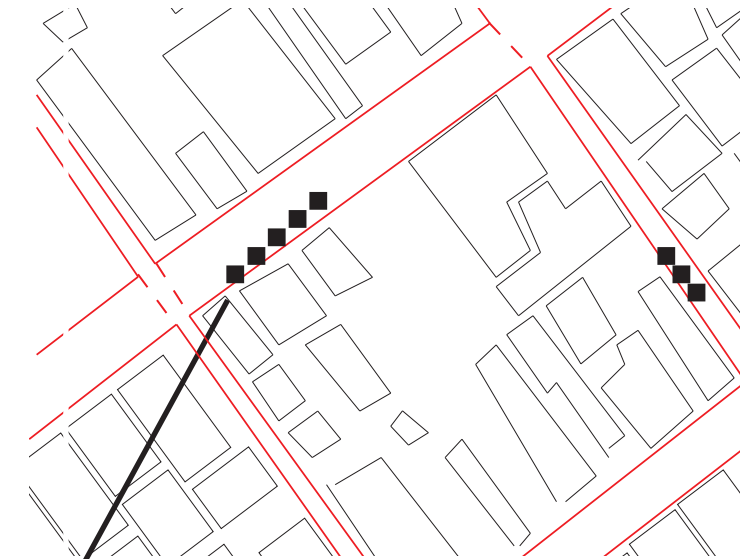
ある一区画と8コの”ソレ”を例に見る



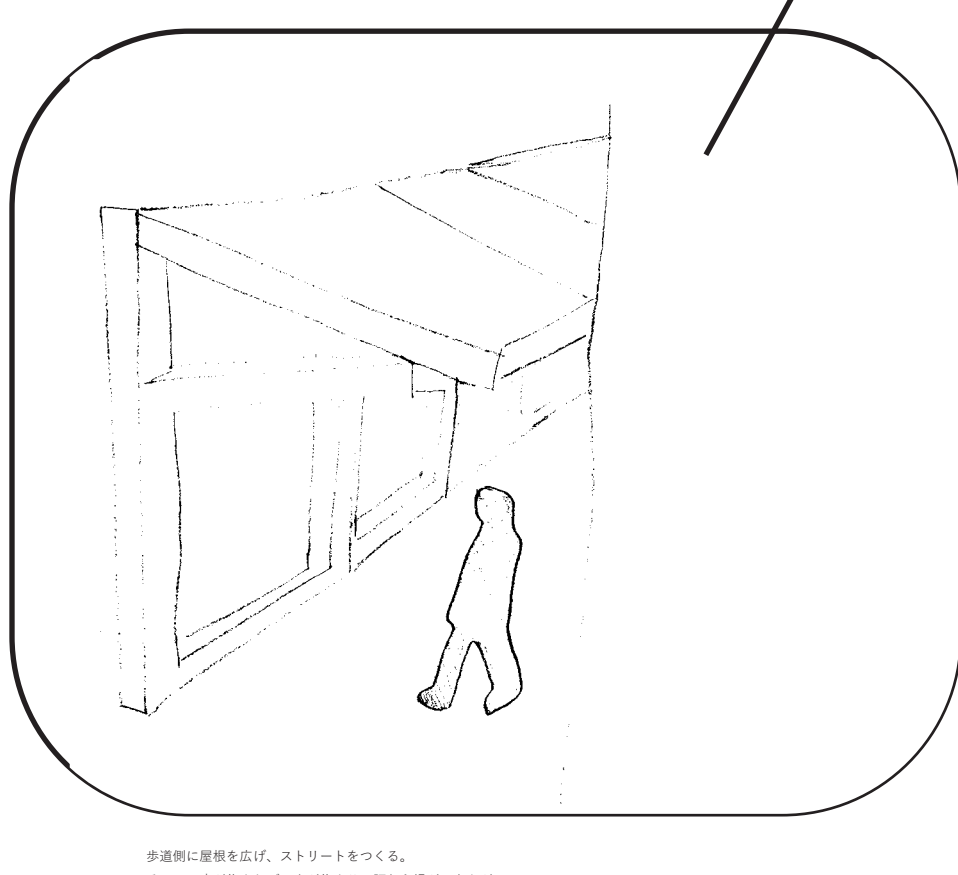
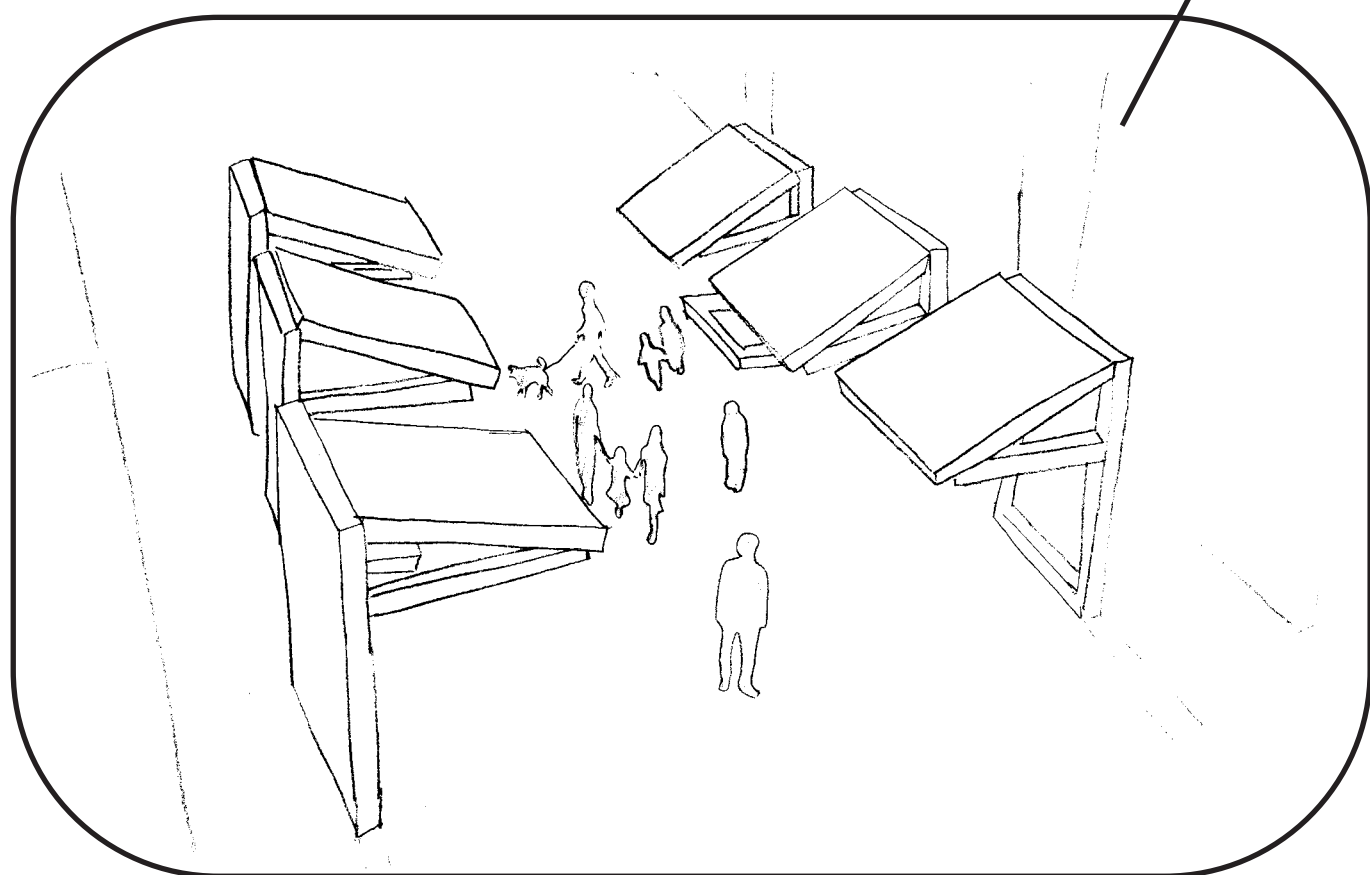
集って



散って



回ってゆく



まちを固定して人を動かそうなんて、古い！  
まちが動けば、それが人の興味を刺激する。  
ほら、自然に人が動き出す。

隣町のお店も集まって、そのときだけの〇〇ストリート。  
商店街も出張して、来るたび変わる融合アーケード。

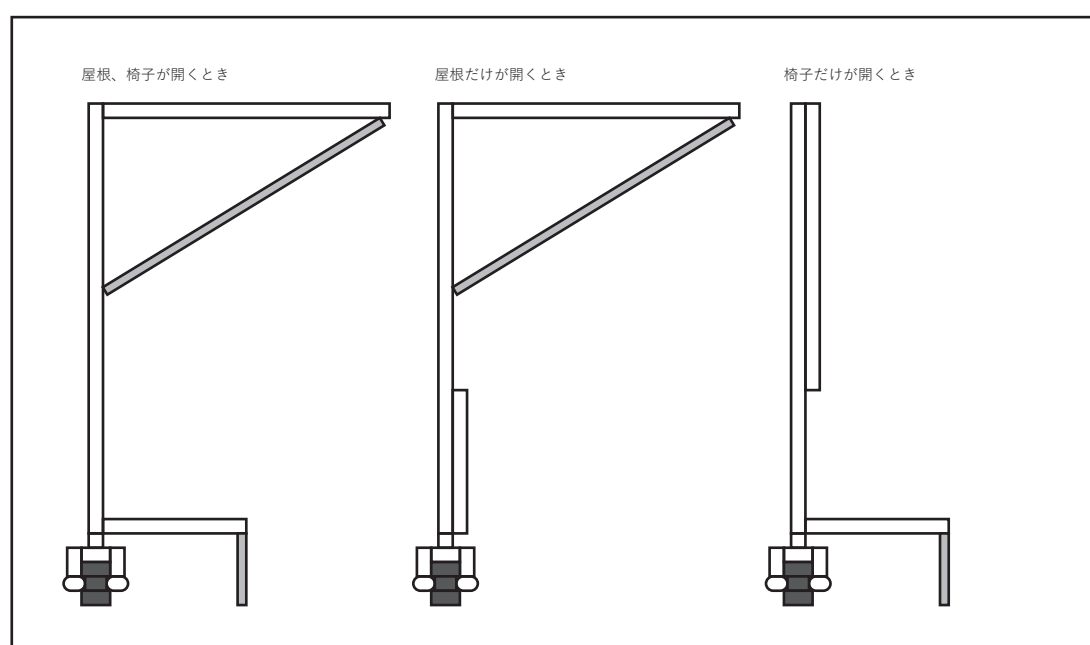
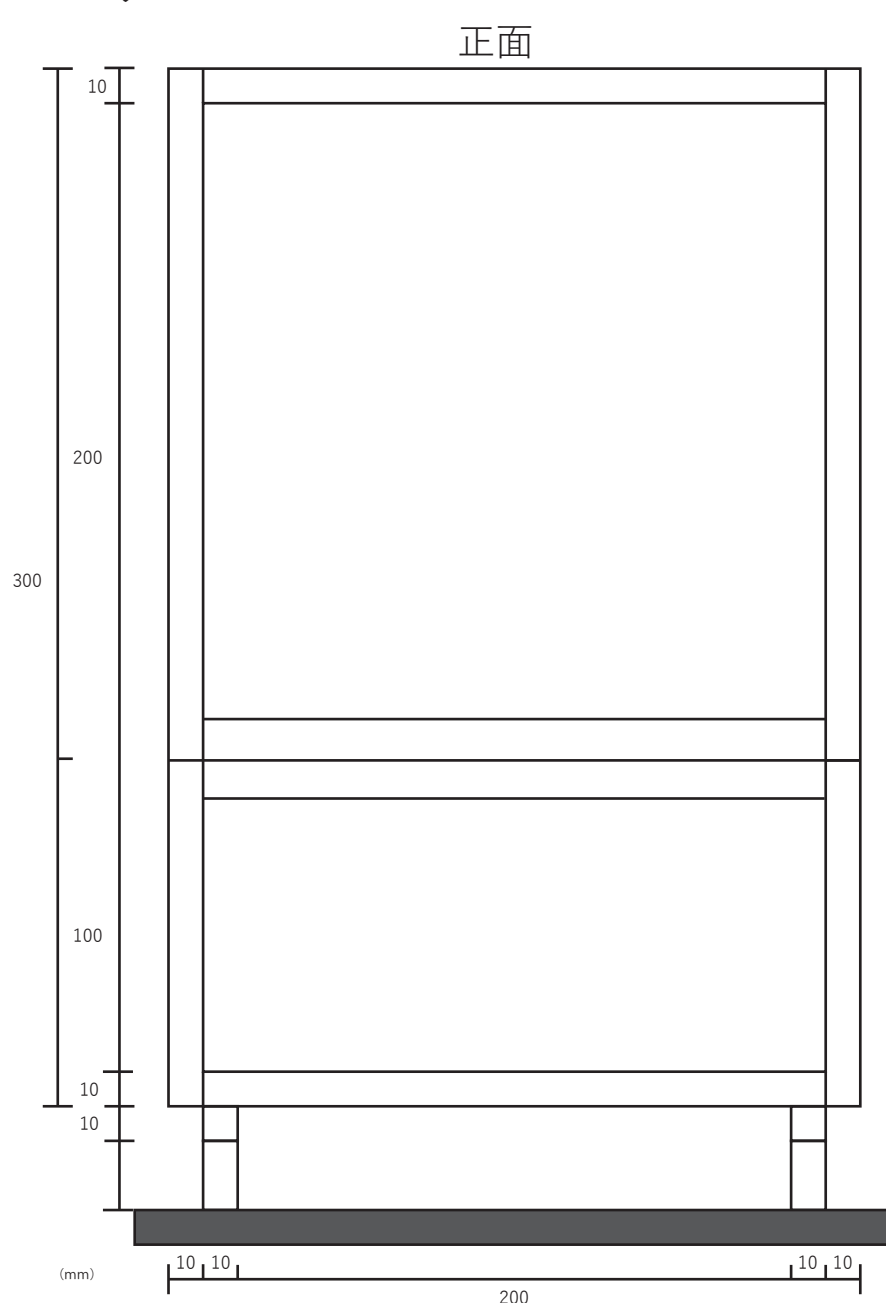
ソレは普段は看板としてまちにいて、ときにはお店の形となり、立体的な広告に。  
ソレは新しい広告のカタチである。

「今週はどんなお店が来るのかな」  
「スイーツストリートがくるらしいよ！」  
まちに新たな楽しみができ、それが人を動かすきっかけとなる。  
「隣町まできているんだって！」「ちょっと行ってみようか。」

まちが「うごき」、「かわり」、そして「つづいて」いく。

## ———まちが動いて、人が動く。 きっかけを与える”ソレ”とレールとなる縁石。

”ソレ”



**縁石**  
”ソレ”を動かすため、真ん中がくぼんでいる。ここをソレの車輪が走る。レールのような役割をする。

”ソレ”の背面には、液晶パネル。移動するまちごとに、時間形ごとに、さまざまな情報を流してくれる。  
”ソレ”はひとりで動き出す。まるで私たちと同じ、生き物のように。

分布図

モデル：高岡市片原町  
赤の線が縁石の分布。道路沿いすべてに張り巡らされる。  
黒い長方形は、”ソレ”。集い散り、日々変化する。  
細部までまちはずながり、文化が交差し交流し、動いて変化し、続いていく。



現実には、ガードレールや標識・電柱があり、”ソレ”が走ることは困難。  
縁石の形とともに、まち全体の土木の在り方も変えていき、そこに住む人のことを考えたまちへと。